

# 第 37 回 日 本 血 液 事 業 学 会 総 会

## [報 告]

平成 24 年度 事業報告

平成 26 年度 事業計画

会費の改正及び会員区分の変更

第 38 回日本血液事業学会総会長の選出

第 39 回日本血液事業学会総会候補地

開 催 日：編集委員会・役員会・評議員会

平成 25 年 10 月 20 日(日)

会 場：日本赤十字社北海道ブロック血液センター

## 平成24年度日本血液事業学会事業報告

### ◎会員数 平成24年3月31日現在

A 会員	6,895 名
B 会員	1 名
C 会員	69 名
合 計	6,965 名

### ◎学会機関紙「血液事業」の発行

第35巻第1号	2012年 5月	7,150 部
第35巻第2号	2012年 8月	7,350 部
第35巻第3号	2012年11月	7,150 部
第35巻第4号	2013年 2月	7,150 部
合 計		28,800 部

### ◎第36回日本血液事業学会総会

#### 第36回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 宮城県赤十字血液センター

第36回日本血液事業学会総会を東北地区で担当させて戴くこととなり、平成24年10月17日(水)～19日(金)の日程で、仙台市の仙台国際センターを会場とし開催した。また、10月20日(土)には、東日本大震災の惨事状況を直接見て頂くとともに、日頃訓練によって震災に備えてきた石巻赤十字病院の対応についてお話をお聞きし、今後の巨大地震への備えを再認識して頂くため、竣工した東北ブロック血液センターの見学並びに未だ震災の傷跡が著しい被災地(石巻市、女川町)の視察を企画した。

平成23年3月11日に経験した東日本大震災は、血液事業にも重要な課題を提起した。幸いにも全国各血液センターの皆様のご協力により、医療機関へは輸血用血液製剤を滞りなく供給する事が出来た。今後の広域災害も考慮し、総会のテーマを「血液事業の再構築—震災を乗り越えて—」とした。

総会には1,019名(スタッフを除く)、会員交見会には509名、東北ブロック血液センター見学及び被災地視察には121名と全国多数の方々にご参加頂き、無事総会を終了した。

プログラム内容は以下のとおりである。

特別講演は3題、特別講演1「血液事業の将来像」演者：西本 至氏(日本赤十字社血液事業本部)・特別講演2「医薬品医療機器総合機構(PMDA)からの血液事業に対する期待」演者：近藤達也氏(医薬品医療機器総合機構)・特別講演3「TPPが医療に及ぼすもの—血液事業とTPP—」演者：河原和夫氏(東京医科歯科大学大学院政策科学分野)で行った。

特別企画は、「細胞工学による血液細胞の誘導」と題し、「iPS細胞を用いた血液事業戦略の方向性」演者：江藤浩之氏(京都大学iPS細胞研究所臨床応用研究部門)・「赤血球人工生産のための赤血球前駆細胞株の樹立」演者：栗田 良氏(独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター)・「iPS細胞研究の現状と課題」演者：青井貴之氏(京都大学iPS細胞研究所基盤技術研究部門)

で行った。

教育講演は4題、教育講演1「慢性貧血の診断と治療」演者：張替秀郎氏（東北大学大学院医学系研究科血液・免疫病学分野）・教育講演2「輸血によるウイルス感染の更なる減少を目指して」演者：岡本宏明氏（自治医科大学医学部感染・免疫学講座ウイルス学部門）・教育講演3「諸外国の血液事業の現状」演者：沼田芳彰氏（日本赤十字社血液事業本部）・教育講演4「血液事業における品質保証の実践―採血・供給過程の品質とは―」演者：吉野 節氏（日本赤十字社血液事業本部）で行った。

イブニングセミナーは2題、イブニングセミナー1「iPS細胞の基礎的知識」をテーマに、演者：木村貴文氏（京都大学iPS細胞研究所基盤技術研究部門）で、イブニングセミナー2「学会（日本輸血・細胞治療学会）認定・アフエレーシスナースについて」をテーマに、演題「学会認定・アフエレーシスナース制度の経緯」演者：池田和真氏（岡山県赤十字血液センター）・演題「血液センター看護師としての学会認定・アフエレーシスナース制度との関わり」演者：岡村弘子氏（日本赤十字社中四国ブロック血液センター）を行った。

シンポジウムは6題、シンポジウム1「移植医療における日本赤十字社の役割―血液製剤の新たな需要―」、シンポジウム2「若い人たちへの献血推進の広報」、シンポジウム3「広域事業運営体制における更なる安定供給の向上―献血者の安定確保と血液製剤の有効活用の取り組み―」、シンポジウム4「抗HBs人免疫グロブリン製剤（HBIG）の国内自給に向けた方策」、シンポジウム5「輸血副作用の温故知新」、シンポジウム6「血液事業における危機管理―広域災害に対する取り組み―」を行った。

ワークショップは4題、ワークショップ1「地域センターの活性化に向けて」、ワークショップ2「HBV感染既往血液への更なる安全対策をめぐって」、ワークショップ3「固定施設における献血者確保の取り組み」、ワークショップ4「採血前検査の問題点」を行った。

共催（ランチョン）セミナーは5題、共催（ランチョン）セミナー1「本邦におけるHTLV-1感染とキャリア指導の留意点」演者：岡山昭彦氏（宮崎大学医学部内科学講座免疫感染病態学分野）、共催（ランチョン）セミナー2「サイバー攻撃の攻撃手法と対策」演者：成島佳孝氏（日立製作所情報・通信システム社セキュリティ・トレーサビリティ事業部）、共催（ランチョン）セミナー3「笑顔があふれる即興コミュニケーション～インプロ・シンキング体験講座～」演者：池上奈生美氏（株式会社インプロジャパン）、共催（ランチョン）セミナー4「LDL―コレステロールと生活習慣病の関係」演者：上島弘嗣氏（滋賀医科大学生活習慣病予防センター）、共催（ランチョン）セミナー5「スマートエイジング―脳を知り、脳を鍛える―」演者：川島隆太氏（東北大学加齢医学研究所）を行った。

一般演題は213題（口演76題、ポスター137題）が発表された。

最終日には、「東日本大震災を巡るさまざまな取り組み」をテーマに、市民公開講座を催した。演題「東日本大震災における自衛隊の活動」演者：伊藤 孝氏（宮城県赤十字血液センター）、演題「東日本大震災における日本赤十字社の救護活動」演者：菅原清悦氏（日本赤十字社宮城県支部）、演題「2011年東北地方太平洋沖地震津波の教訓とこれからの取り組み」今井健太郎氏（東北大学災害科学国際研究所災害リスク研究部門津波工学研究分野）で行った。

総会前日には学会編集委員会、学会役員会、学会評議員会を、第1日目には血液センター連盟役員会を、第2日目夕刻には仙台国際ホテルにて会員交見会を開催した。

防災・震災関連展示として、河北新報社・社団法人東北建設協会のご協力による東日本大震災パネル展をアイディールプレーン株式会社のご協力による、地震、免震の体験コーナーを、一般財団法人移動無線センター・(株)岡村製作所・(株)共栄防災による防災・震災関連製品の紹介を頂いた。企業展示には34社(62区画+1室)出展頂き、展示ミニセミナーも開催された。

抄録集には盛り込むことのできなかった事柄については、「プログラム集」を作成し、参加者に配布した。また、震災復興支援物産販売コーナーを設け、被災企業への皆様方からの厚いご支援を頂戴した。

総会終了後、今まで人工的に作ることができないとされてきた赤血球、血小板がiPS細胞を用いて作製が可能となり、血液事業に深く関わりを持つと共にiPS細胞のさまざまな活用が考えられていることから、京都大学iPS細胞研究所木村貴文先生に「iPS細胞：革命を進化に」と題しご執筆頂いた。また、今後巨大地震が予測されている首都直下型、東海、東南海地震などへの備えるうえで、東北大学災害科学国際研究所 今井健太郎先生には「東日本大震災の津波被害からの教訓」と題しご執筆頂き、両先生の論文を全会員に配布した。

## 平成26年度日本血液事業学会事業計画

## ◎会員数

A 会員	7,000 名
B 会員	60 名
合 計	7,060 名

## ◎学会機関紙「血液事業」の発行

第37巻第1号	2014年	5月	7,400部
第37巻第2号	2014年	8月	7,500部 (抄録集)
第37巻第3号	2014年	11月	7,400部
第37巻第4号	2015年	2月	7,400部
合 計			29,700部 発行

## 日本血液事業学会会費の改正及び会員区分の変更

日本血液事業学会 会長 南 陸 彦

日本血液事業学会の運営については、(昭和63年度の規約改正以来) 現行の会員区分による、年度会費をもって事業を実施し、資金的に運営が困難な時には、必要の都度、本社からの補助金をいただき運営してまいりました。

このたび、学会の運営資金は、学会員の会費で全て賄なわれることが望ましいとの考えから、従来の補助金での対応を改めることといたしました。

つきましては、会費の見直しが必要であり、会員区分の見直しと併せて、以下の規約等の改訂を提案させていただきます。

なお、本件に関しては、血液事業本部とも協議をさせていただき予算処置をお願いしたところです。

### 主な改正について

#### 1. 会員区分 [現 行]

- |     |                           |
|-----|---------------------------|
| A会員 | 血液センター職員及び本部職員            |
| B会員 | 日本赤十字社の本社、支部、病産院、その他の施設職員 |
| C会員 | 一般会員(役員会で認めた者)            |



#### [改 正]

- |     |   |
|-----|---|
| A会員 | 血液センター職員、血液事業本部職員及び日本赤十字社の本社、支部、病産院、その他の施設の職員 |
| B会員 | 一般会員(血液事業に関心を持ち、血液事業学会の規約を遵守し入会を希望する者)        |

#### 2. 会 費 [現 行]

- |     |           |                 |
|-----|-----------|-----------------|
| A会員 | 年会費2,000円 | 他に施設会費 150,000円 |
| B会員 | 年会費5,000円 |                 |
| C会員 | 年会費6,000円 |                 |



#### [改 正]

- |     |           |
|-----|-----------|
| A会員 | 年会費6,000円 |
| B会員 | 年会費6,000円 |

## 会費の改正及び会員区分の変更に伴う規約の改訂

## 現行 規約

## 規約 改訂 (案)

<p>第4条</p> <p>(1) 日本赤十字社血液センター（日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所，血液管理センターを含む。以下「血液センター」という）及び日本血液事業本部の職員（A会員）</p> <p>(2) 日本赤十字社の本社，支部，および病産院，その他施設の職員であって入会を希望する者（B会員）</p> <p>(3) 日本赤十字社職員以外の者で血液事業に関心を持ち，入会を希望し役員会で認めた者（C会員）</p> <p>(4) 本会には役員の推薦および評議員会の承認を得て，名誉会員をおくことができる</p>	<p>第4条</p> <p>(1) 日本赤十字社血液センター（日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所，血液管理センター，血液事業本部の職員を含む。以下「血液センター」という）及び日本赤十字社の本社，支部，病産院，その他施設の職員であって入会を希望する者（A会員）</p> <p>(2) 日本赤十字社職員以外の者で血液事業に関心を持ち，日本血液事業学会規約を遵守し入会を希望した者（B会員）</p> <p>(3) 本会には役員の推薦および評議員会の承認を得て，名誉会員をおくことができる</p> <p>改正 平成26年4月1日</p>
---	--

この改訂は平成26年4月1日から施行する。

## 入会並びに学会誌購読手続きご案内の改訂

## 現行のご案内

## 改訂のご案内

<p>入会資格</p> <p>A 会員 日本赤十字社血液センター及び日本赤十字社血液事業本部の職員</p> <p>B 会員 日本赤十字社の本社、支部及び病産院その他の施設の職員</p> <p>C 会員 日本赤十字社職員以外の者で血液事業に関心をもち、入会を希望し役員会で認めた者</p> <p>会費</p> <p>A 会員 年間2,000円 (個人会費：他に施設会費あり)</p> <p>B 会員 年間5,000円</p> <p>C 会員 年間6,000円</p> <p>会員承認</p> <p>本学会に入会(特にC会員の入会は役員会での承認が必要となります)</p> <p>会費の支払い</p> <p>A 会員は、センター一括でお支払ください。</p> <p>B 会員は、郵便振替口座をご利用のうえ、お支払ください。</p> <p>C 会員は、入会の申し出をいただき、役員会の承認のお知らせのあったのち、郵便振替口座をご利用のうえ、お支払ください。</p>	<p>入会資格</p> <p>A 会員 日本赤十字社血液センター、日本赤十字社血液事業本部の職員及び日本赤十字社の本社、支部及び病産院その他の施設の職員</p> <p>B 会員 日本赤十字社職員以外の者で血液事業に関心を持ち、日本血液事業学会の規約を遵守し入会を希望した者</p> <p>会費</p> <p>A 会員 年間6,000円</p> <p>B 会員 年間6,000円</p> <p>会員承認</p> <p>削 除</p> <p>会費の支払い</p> <p>A 会員のうち、日本赤十字社血液センター、日本赤十字社血液事業本部の会員については一括でお支払ください。</p> <p>そのほか、日本赤十字社の本社、支部及び病産院その他の施設の会員については、郵便振替口座をご利用のうえお支払ください。</p> <p>B 会員は、郵便振替口座をご利用のうえお支払ください。</p> <p>改正 平成26年4月1日</p>
---	--

この改訂は平成26年4月1日から施行する。



## ◎第38回日本血液事業学会総会

### 第38回(平成26年度)日本血液事業学会総会長の選出

総会長 土 肥 博 雄 先生

日本赤十字社中四国ブロック血液センター 所長)

(規約第10条第3号)

総会の開催にあたっては会長が評議員会にはかって総会長を委嘱する。

第38回日本血液事業学会総会(総会長：土肥 博雄先生日本赤十字社中四国ブロック血液センター所長)は、2014年(平成26年)10月29(水)～31日(金)に広島国際会議場(広島市)を会場として開催する。

### 第39回(平成27年度)日本血液事業学会総会開催地

(予 定)

日本赤十字社 近畿ブロック内血液センター

## 日本血液事業学会総会開催状況

回	開催年月	開催場所	総会長	総会事務局
1	1977(S.52). 7	宮城県(仙台市)	所長 千葉修次郎	宮城県赤十字血液センター
2	1978(S.53). 6	東京都(渋谷区)	所長 大林 静男	日本赤十字社中央血液センター
3	1979(S.54). 7	神奈川県(横浜市)	所長 岩田 昌一	神奈川県赤十字血液センター
4	1980(S.55). 7	兵庫県(神戸市)	所長 今井 英世	兵庫県赤十字血液センター
5	1981(S.56). 7	岡山県(岡山市)	所長 西崎太計志	岡山県赤十字血液センター
6	1982(S.57). 7	静岡県(静岡市)	所長 野口 正輝	静岡県赤十字血液センター
7	1983(S.58). 9	福岡県(福岡市)	所長 吉成 章之	福岡県赤十字血液センター
8	1984(S.59). 9	大阪府(大阪市)	所長 田中 正好	大阪府赤十字血液センター
9	1985(S.60). 9	京都府(京都市)	所長 細井 武光	京都府赤十字血液センター
10	1986(S.61). 9	宮城県(仙台市)	所長 赤石 英	宮城県赤十字血液センター
11	1987(S.62). 9	愛知県(名古屋市)	所長 福田 常男	愛知県赤十字血液センター
12	1988(S.63). 9	広島県(広島市)	所長 宗像 寿子	広島県赤十字血液センター
13	1989(H. 1).10	熊本県(熊本市)	代行 前田 義章	熊本県赤十字血液センター
14	1990(H. 2). 9	福島県(福島市)	所長 渡辺 岩雄	福島県赤十字血液センター
15	1991(H. 3). 9	奈良県(奈良市)	所長 市場 邦通	奈良県赤十字血液センター
16	1992(H. 4). 9	東京都(北区)	所長 天木 一太	東京都赤十字血液センター
17	1993(H. 5). 9	北海道(札幌市)	所長 関口 定美	北海道赤十字血液センター
18	1994(H. 6). 9	石川県(金沢市)	所長 大川 力	石川県赤十字血液センター
19	1995(H. 7). 9	大阪府(大阪市)	北大阪所長 小川 昌昭	大阪府赤十字血液センター
20	1996(H. 8). 3	千葉県(千葉市)	所長 十字 猛夫	日本赤十字社中央血液センター
21	1997(H. 9). 9	宮崎県(宮崎市)	所長 新宮 世三	宮崎県赤十字血液センター
22	1998(H.10). 9	北海道(旭川市)	釧路所長 中澤 英輔	北海道赤十字血液センター
23	1999(H.11). 9	新潟県(新潟市)	所長 小島 健一	新潟県赤十字血液センター
24	2000(H.12). 9	岡山県(倉敷市)	所長 喜多嶋康一	岡山県赤十字血液センター
25	2001(H.13). 9	愛知県(名古屋市)	所長 小澤 和郎	愛知県赤十字血液センター
26	2002(H.14). 9	福岡県(福岡市)	所長 前田 義章	福岡県赤十字血液センター
27	2003(H.15). 9	京都府(京都市)	所長 横山 繁樹	京都府赤十字血液センター
28	2004(H.16). 9	神奈川県(横浜市)	所長 諏訪 城三	神奈川県赤十字血液センター
29	2005(H.17).10	宮城県(仙台市)	所長 船山 完一	宮城県赤十字血液センター
30	2006(H.18).10	北海道(札幌市)	所長 池田 久實	北海道赤十字血液センター
31	2007(H.19).10	香川県(高松市)	所長 内田 立身	香川県赤十字血液センター
32	2008(H.20).10	大阪府(大阪市)	所長 柴田 弘俊	大阪府赤十字血液センター
33	2009(H.21).11	愛知県(名古屋市)	名誉所長 神谷 忠	愛知県赤十字血液センター
34	2010(H.22). 9	福岡県(福岡市)	所長 清川 博之	福岡県赤十字血液センター
35	2011(H.23).10	埼玉県(さいたま市)	所長 南 陸彦	埼玉県赤十字血液センター
36	2012(H.24).10	宮城県(仙台市)	所長 伊藤 孝	宮城県赤十字血液センター
37	2013(H.25).10	北海道(札幌市)	所長 高本 滋	北海道ブロック血液センター
38	2014(H.26).10	広島県(広島市)	所長 土肥 博雄	中四国ブロック血液センター